

出口直日略年譜

【明治】

35年3月7日	綾部町大字本宮村に上田喜三郎（のちの王仁三郎）長女として生誕。喜三郎は「あき野」と命名	7月25日	堂で鑑賞
36年5月24日	なお・王仁三郎・すみこらと弥仙山御礼参拜。同日より直日を名乗る	12月	帰国の王仁三郎を門司で出迎え
41年4月	綾部尋常小学校に入学	14年2月3日	若山牧水の歌壇「創作」に入会
【大正】		5月22日	王仁三郎は世界宗教連合会を北京で発会
3年4月	何鹿郡立女子実業学校に入学同年9月中退	6月9日	人類愛善会発会。奉告祭の齋主を
3～4年ころ	八雲琴を梅田やすにつきけい古。祭典に伶人奉仕	2年7月	高見元男に国文学・東洋史を習う
4年4月	梅田信之のすすめで和歌の道をこころざす	3年2月1日	高見元男と結婚。
11月	大日本武徳会に入会、京都の梅田邸に寄宿し剣道を	11月16日	月宮殿完成
5年2月19日	直霊軍別動隊の白虎隊（少年）を組織し指揮をとる	4年2月4日	長生殿地搦きを
5月	和歌を出口直澄の名で発表	7月30日	長女・直美誕生
10月5日	神島開きになお・王仁三郎・すみこらと開祖昇天	12月	前田夕暮の歌壇「詩歌」に入会 中川莖子・橘雪の名で投稿
7年11月6日	高見元男（のちの日出磨）、初参綾・修行	5～6年ころ	今日庵で淡々齋宗匠から「宗日」の茶名を
8年3月31日	亀山城跡入手	7年2月13日	二女・麻子誕生
11月18日	茶道（裏千家）を長谷川宗美に習う	7年10月31日	昭和坤生会発会、会長補となる
12月	和歌を木の花曙丸の名で発表	8年1月26日	大本を皇道大本に改称
9年1月	五六七殿完成	9年1月	中河幹子の歌壇「ごぎやう」に入会。葛原けいの名で投稿
2月	第一次大本事件	10年2月19日	昭和神聖会創立
10年2月12日	本宮山神殿仮鎮座祭の齋主を	7月22日	三女・聖子誕生
7月27日	本宮山神殿昇神祭の齋主を	10年2月19日	王仁三郎は歌祭を再興し大本歌祭を
10月18日	本宮山神殿昇神祭の齋主を	10月31日	第二次大本事件
10月18日	王仁三郎は「霊界物語」の口述開始	12月8日	日出磨は拷問で日赤病院に入院
11年2月15日	処女歌集「志ら梅」を刊行	11年2月	開祖奥都城の強制破却に立ち会う
12年9月21日	中野茗水から宝生流謡曲を本格的に習う	5月11日	検挙され綾部署に留置。7月8日釈放
13年2月13日	王仁三郎は入蒙の意を告げ出発	6月29日	長男・京太郎誕生
5月25日	中野茗水の能「草子洗」を東京・染井能楽	8月2日	綾部上野町藤山へ転居。「雑草居」とよぶ
		12月	産後の経過悪く京大病院に入院。29日退院
		12年1月15日	清瀬一郎・林逸郎弁護士来訪裁判への決意をかためる

【昭和】

5月1日	日出磨に京都刑務所で初の面会
9月下旬	亀岡中矢田に転居。裁判資金調達に苦慮
14年10月27日	日出磨は亀岡中矢田に帰る
15年春	農業を始める
17年4月18日	日出磨は穴太の長久館に移る
8月7日	王仁三郎・すみこ保釈出所
18年6月17日	戦時下の歌風になじめず「ごぎやう」退会
20年	家族と竹田別院へ移る。30日日出磨も自作農のかたわらけい古事に励む
10月17日	立花大亀の紹介で京都・金剛能楽堂へ（終戦間もないころ）
12月8日	大赦令で大本事件解消
10月17日	大本事件解決奉告祭。
12月8日	愛善苑として再発足
5月23日	鉢伏山開きに王仁三郎・すみここと
6月4日	月山不二築造（梅松苑）
6月4日	夏山茂樹の歌壇「丹波路」に入会
6月8日	金剛流宗家金剛巖（初世）を竹田別院に招き、仕舞「高砂」を舞う
6月8日	天恩郷で裏千家元淡々齋宗室による献茶式
6月8日	竹田別院に茶室「掬水庵」完成
2月4日	王仁三郎昇天
2月4日	愛善みずほ会設立
冬	王仁三郎の茶茶碗「天国二十八」を金重陶陽におくる
24年10月29日	愛善苑を大本愛善苑と改称
12月8日	人類愛善会再発足。楽天社設立。月宮宝座完成（天恩郷）
25年1月1日	「木の花」創刊。短歌の選者となる
2月3日	愛善エスぺラント会発足（現大本エスぺラント普及会）瑞月窯（楽焼窯）を築く
3月26日	大阪歌祭に臨席（住吉神社）

25年5月5日	金沢歌祭に臨席（金沢能楽堂）	30年5月8日	新潟歌祭に臨席（新潟日報ホール）	38年4月14日	「聴雪記」を刊行
5月25日	「野の草の会」をもち山や野へ	5月29日	関東歌祭に臨席（水道橋能楽堂）	4月28日	岩戸開き六十周年に弥仙山参拝。「大本開
6月11日	松野奏風の能画披露会を竹田別院で	8月8日	宗教世界会議綾部大会の名譽会長に就任	7月14日	祖御出修之地」史蹟碑を弥仙山に建立
8月24日	花明山工房開き（天恩郷）	31年8月7日	教主公館・朝陽館完成（天恩郷）	エスぺラント碑建立（天恩郷）	
8月25日	天恩郷での大本歌祭を復活	9月28日	開祖聖誕百二十年に弥仙山参拝	御殿舞を松本尚女に習う。のち「尚日」の	
9月24日	東海歌祭に臨席（熱田神宮能楽堂）	11月6日	世界平和祈願万国慰霊祭	名取となる	
12月19日	随想「私の念願」を発表、自然保護を訴える	32年3月7日	「私の手帖」を刊行	なには別院を開設（大阪）	
26年2月3日	日出磨は竹田から天恩郷・照明館に移る	4月25日	社会福祉法人信光会設立。	歌集「西王母」を刊行	
4月	花明山植物園を開園、竹内敬を初代園長に	4月30日	高熊山を入手（岩くつ周辺）	出口直日作陶展を東京日本橋・壺中居で開催	
4月28日	金沢歌祭に臨席（金沢能楽堂）	33年3月28日	王仁三郎入山六十周年に高熊山参拝	開祖聖誕慶祝大本能で能「小袖曾我」を	
5月26日	京都歌祭に臨席（金剛能楽堂）	8月7日	万祥殿完成（天恩郷）	吉野山で借家し清遊。長期滞在	
8月13日	花明山窯芸道場完成。京都清水の伯山窯を移築	10月7日	「続私の手帖」を刊行	「現代歌人総覧」に短歌掲載さる	
9月8日	小田原歌祭に臨席（市中央公民館）	34年3月	三代教主生誕慶祝にみろく能、開祖聖誕慶祝に大本能を定期に	大本エスぺラント国際友好祭でエス語であいさつ	
27年3月31日	金重陶陽の指導でぐい呑千個、茶盃百個をつくる。翌年石黒宗磨にロク口を習う	10月13日	伊勢湾台風被災地見舞いに東海地方へ	梅松館完成し移る。同年8月16日日出磨も	
4月1日	すみこ昇天。三代の道統継承	11月3日	鶴山工房開き（綾部）	「寸葉集」巻一を刊行	
5月30日	大本愛善苑を大本と改称。三代教主に就任、日出磨は三代教主補に	35年2月13日	世界連邦国家宣言促進請願署名簿百三十万人を国会へ提出	八雲琴「琴の由来」を梅松館完成祝に	
7月26日	島根・鳥取主会へ教主就任後初の親教	4月12日	皇居での園遊会に出席	開島五十周年記念に神島参拝	
9月1日	花明山茗水会を発足させ、中野茗水の芸風保存に尽力	5月4日	能「猩々」を東京・水道橋能楽堂で	9月8日	奈良岡の家別院完成。明日香の保存を訴える
28年4月14日	葉がくれ居完成。茶室を設ける（天恩郷）	11月20日	能「羽衣」を万祥殿能舞台で	42年12月24日	教主・教主補生誕祭に大本みろく能を（みろく能と大本能を合併）
4月16日	桜の新種「コノハナザクラ」を発見	36年1月11日	鶴山窯（登り窯）築造。4月16日鶴山工房完成	43年4月6日	木の花ざくら観桜茶会を。公開・継続
8月21日	みろく殿完成	5月14日	能「杜若」を万祥殿能舞台で	4月13日	梅松塾を人材養成のため開設
8月	歌集「ちり塚」を刊行	7月2日	八雲琴「琴の由来」を田中緒琴の無形文化財指定祝賀演奏会で	4月15日	東京本部開設。東光苑と命名
29年3月7日	三巾前掛を木の花帯と命名	37年3月7日	三代教主還暦生誕祭に能「西王母」を	10月20日	「こころの帖」を刊行
4月1日	歌集「雲珠桜」を刊行	3月31日	世界平和祈願万国慰霊祭。以後10年ごとに	12月13日	上田堪庵のすすめで茶杓を削る
5月8日	東京本苑を開設	9月	大本の平和運動のあり方について「私のねがい」を発表	44年1月15日	立花大亀・出口直日二人展を東京日本橋・三越で
6月15日	松江歌祭に臨席（島根別院）	11月9日	教団機構を刷新	45年1月7日	現代茶陶名品展に出品（北九州小倉・井筒屋）
	原水爆反対の署名簿一六〇万人と要請文	11月18日	開教七十年記念に五流能を開催	6月2日	七草がゆを天恩郷で。公開・継続
	を国連事務総長へ送達				清水比庵・出口直日二人展を大阪難波・高島屋で

45年8月6日	「出口直日陶芸図鑑」を刊行				
10月11日	東京本部本館完成、能舞台を設ける	53年2月16日	殿で。11月7日万祥殿で	58年2月3日	決定 「大本神論」を刊行、全七巻
10月16日	世界宗教者平和会議の名誉顧問に就任		をネパール国カトマンズの愛善センターで	8月8日	大本エスペラント普及会創立六十周年記念式典
46年8月7日	王仁三郎聖誕百年記念瑞生大祭を	4月6日	教主・教主補生誕祭・金婚式典		
8月7日	人類愛善会新発足	5月7日	みろく顕現祭・大本歌祭を聖ヨハネ大聖堂で	11月5日	諸宗教による式「平和と創造」を万祥殿で
9月19日	「せかいへいわ」碑を建立(鳥取県・吉岡温泉)	54年5月3日	喜寿慶祝梅松祭	59年3月6日	シナイ山合同礼拝式典「人類の和解と世界平和」に代表参加
47年1月1日	「この後の一二年を有終の美を刻むべき周期たらしめたい」との所信表明	5月4日	武原はん・今藤長十郎の「楽と舞の宴」を		
4月6日	梅松祭(三代教主古希)		喜寿慶祝に	61年5月5日	長生殿地鎮祭
5月4日	京都府船井郡の古民家を移築復元し「木の花庵」と命名。のちに国の重要文化財に指定	5月5日	キリスト教礼拝式・平和と一致を万祥殿で	62年7月26日	世界エスペラント大会で出口王仁三郎賞を贈る。継続
8月5日	「寸葉集」巻二を刊行	6月15日	出口直日作品集・陶芸編を刊行12月10日書画編を	8月3日	比叡山宗教サミットで名誉顧問に就任。代表参加
8月29日	公害草の除去運動を指示	7月16日	綾部の教主公館・緑寿館完成	9月4日	「霊界物語」修補版を刊行
10月18日	大本海外作品展を欧米六カ国13会場で開催。50年12月17日まで	10月4日	日出席、梅松館から緑寿館に移る	63年1月23日	出口聖子を教主代行に任命
48年3月7日	茶席泰安居完成(天恩郷)各界の知友、信徒・奉仕者を茶事に招く	10月8日	秋をめぐる夕を両聖地で。公開・継続	5月3日	ご成婚六十周年記念梅松祭
10月13日	舞囃子「草紙洗」を伊勢内宮境内能楽殿で	11月19日	茶席・鶴山居完成(梅松苑)	8月23日	歌集「近詠集」を刊行
10月16日	裏千家家元鵬雲齋宗室による献茶式に列席(みろく殿)	55年3月10日	シナイ山平和の式典に代表参加		
50年3月12日	大本海外展ニューヨーク展開催奉告祭を	5月11日	出口和明ら「いづとみづの会」設立。反教団活動表面化	1年5月3日	米寿慶祝梅松祭
6月7日	聖ヨハネ大聖堂で	10月19日	奉納。16日英国カンタベリー大聖堂でも	5月5日	長生殿上棟祭
10月19日	第7回世界連邦平和促進宗教者亀岡大会の大会長に就任	12月1日	ド・パール・カンタベリー大聖堂長と会見。大阪市立大病院で	11月6日	白梅殿上棟祭
51年7月26日	TOU第5回世界精神頂上会議開催奉告景祭を聖ヨハネ大聖堂で。23日教主名代がスピーチを	56年1月1日	歌集「ちりづか」を刊行	2年5月3日	老松殿上棟祭
52年1月31日	大本・日本伝統芸術学苑(大本夏季セミナー)を。継続	2月5日	「道を護らむ」の所信表明	9月12日	肺炎のため京都桂病院に入院
2月3日	モートン・聖ヨハネ大聖堂長と会見。大阪市立大病院で	57年5月3日	人類愛善会アジア代表者会議を京都国際会館で	9月23日	午後二時十分昇天、満88歳6カ月
	キリスト教礼拝式「平和と一致をみろく	5月26日	世界平和のための合同礼拝式をみろく殿で		
			出口栄二は教団と役員を提訴(日2年10月12日原告は訴訟取り下げ)		
			傘寿慶祝梅松祭		
			教主継承者(教嗣)を取り消し出口聖子に		

文中の敬称は略。なおは出口なお、王仁三郎は出口王仁三郎、すみは出口すみ、日出鷹は出口日出鷹を表す。この略年譜には三代教主の芸術活動、出版をはじめ、記念祭典、造営、諸活動のうち主要なものをとりあげた。